

AI導入チェックリスト20項目

貴社のAI活用度を5分でセルフ診断

Schoole株式会社

はじめに

AIを業務に組み込もうとして、

- ・「何から始めればいいのかわからない」
- ・「ツールだけ入れて結局使われていない」
- ・「導入したいが社内の温度感が揃わない」

こんな声を、年商1～30億円規模の経営者から多くお聞きします。

このチェックリストは、AI導入が「うまくいく企業」と「途中で止まる企業」を分ける20の論点を、貴社の現状に当てはめて確認するためのものです。

5つのカテゴリ × 4項目 = 20問。各項目に「はい／いいえ」で答えるだけ。所要時間は5分です。

チェック方法

各項目を読み、貴社の現状に当てはまる方にチェックを入れてください。

判断に迷う場合は「いいえ」側に倒すことをおすすめします。過大評価しない方が、後の打ち手が見えやすくなります。

A. 経営・推進体制

#	項目	はい	いいえ
01	経営層（社長・役員）がAI活用を経営テーマとして口に出している	☐	☐
02	AI導入の社内推進担当（役職問わず）が決まっている	☐	☐
03	AI導入の目的（コスト削減／売上拡大／属人化解消／品質向上のいずれか）が言語化されている	☐	☐
04	半年～1年でどの業務を・どこまで変えるかの数値ゴールがある	☐	☐

B. 業務棚卸し・属人化

#	項目	はい	いいえ
05	主要業務のフロー（誰が・何を・どれくらいの時間で）が文書化または図示されている	☐	☐
06	月50時間以上かかっている定型業務が3つ以上特定できている	☐	☐
07	「この人がいないと回らない」業務が3つ以上特定できている	☐	☐
08	営業・経理・マーケティング・カスタマー対応のいずれかで、毎月同じ作業を繰り返している実感がある	☐	☐

C. データ・ツール環境

#	項目	はい	いいえ
09	顧客情報・案件情報・売上情報が、エクセル／スプレッドシート／CRMのいずれかにまとまっている	☐	☐
10	議事録・マニュアル・社内ドキュメントがテキスト（PDF／Word／Notion等）で残っている	☐	☐
11	ChatGPT等の生成AIを業務で日常的に使っている社員が3名以上いる	☐	☐
12	Google Drive／OneDrive／Boxなどクラウドストレージで部門横断にファイルを共有している	☐	☐

D. 人材・スキル

#	項目	はい	いいえ
13	AI活用に前向きで、試したがる社員が部署を問わず複数いる	☐	☐
14	30分以上の集中時間（会議・電話に邪魔されない時間）を勤務時間内に確保できる人がいる	☐	☐
15	現場から業務改善の提案が上がってくる仕組み（朝礼・改善提案・1on1等）がある	☐	☐
16	新しいツール・やり方を「まず試してみる」ことが許容される空気がある	☐	☐

E. ROI・成果検証の素地

#	項目	はい	いいえ
17	部門別・業務別の労働時間・人件費の概算が把握できている	☐	☐
18	外注費（マーケ／経理／採用／IT等）の内訳が見える化されている	☐	☐
19	月次のKPI（売上・粗利・受注数・解約率等）を共有する会議体がある	☐	☐
20	「3ヶ月後・半年後にこれを止める／変える」と決められる意思決定スピードがある	☐	☐

結果の見方

「はい」の数を集計してください。

16～20問：即実装フェーズ

貴社はAI導入の土台が揃っています。「どの業務から手を付けるか」と「誰がエージェントを設計するか」を決めるだけで、3ヶ月以内に実装フェーズに入れます。

→ 推奨：業務改善パッケージ（月30万円・6ヶ月以上）

11～15問：設計フェーズ

業務の見える化はある程度進んでいますが、AI適用領域の優先順位付けが必要なフェーズです。半日のワークショップで「どこから手を付けるか」を一気に固めるのが最短ルートです。

→ 推奨：AI活用ワークショップ（10万円・半日）

6～10問：棚卸しフェーズ

AI導入の前に、まず「業務の現在地」を可視化する必要があります。60分の無料診断で、現状の優先論点を整理しましょう。

→ 推奨：無料AI活用診断（60分・無料）

0～5問：経営意思決定フェーズ

AI導入そのものより先に、「何のためにAIを入れるのか」を経営層で言語化する必要があります。経営層向けのカスタムワークショップが効果的です。

→ 推奨：経営層向けカスタムワークショップ（要相談）

各カテゴリの見方

- ・ A. 経営・推進体制：「やる」の意思決定とドライバーの存在。これが欠けるとプロジェクトは前に進まないことが多い印象です。
- ・ B. 業務棚卸し・属人化：AIを当てる「対象業務」が見えているかどうか。
- ・ C. データ・ツール環境：AIに食わせる素材・連携できる箱があるかどうか。
- ・ D. 人材・スキル：現場の推進力。経営が決めても現場が動かないと止まることが多いです。
- ・ E. ROI・成果検証の素地：効果を測れる状態かどうか。測れないと続かない傾向があります。

5カテゴリのうち、「いいえ」が多いカテゴリが貴社のボトルネックです。

Schoole株式会社について

AIエージェントを活用した業務プロセス改善のプロフェッショナル集団です。

- 業務フローの棚卸しから、AIエージェントの設計・構築・定着支援までを一貫して伴走します
- 「ツールの使い方」ではなく「業務プロセスそのものを再設計する」が私たちの仕事です

次のステップ

このチェックリストの結果を持って、60分の無料AI活用診断にお越しください。貴社固有の優先論点を一緒に整理し、後日診断レポートをお渡しします。

- 無料診断のお申し込み：<https://claudecode.schoole.co.jp/>
- メール：kanemichi@schoole.co.jp